



担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

トムソン・ロイターのファイナンシャル・リスク部門の名称はRefinitiv(リフィニティブ)に変わりました

知りたい  
**投信** なるほど  
リッパー

## 9月までの資金動向

# 資金が集まる新規設定ですが…

2020年9月の投資信託市場は、多額の資金が集まりました。国内で販売されている株式オープン投信の純流入額は、上場投資信託(ETF)を除いてもリッパーの推計で4613億円。7月の純流入5066億円に続く規模で、純流入は

3カ月連続です。1～9月の累計は2.1兆円の流入超過、ETFを含めると流入超過額は8.4兆円に膨らみます。

個別銘柄の1～9月累計は、7月に設定された「グローバルESGハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッ

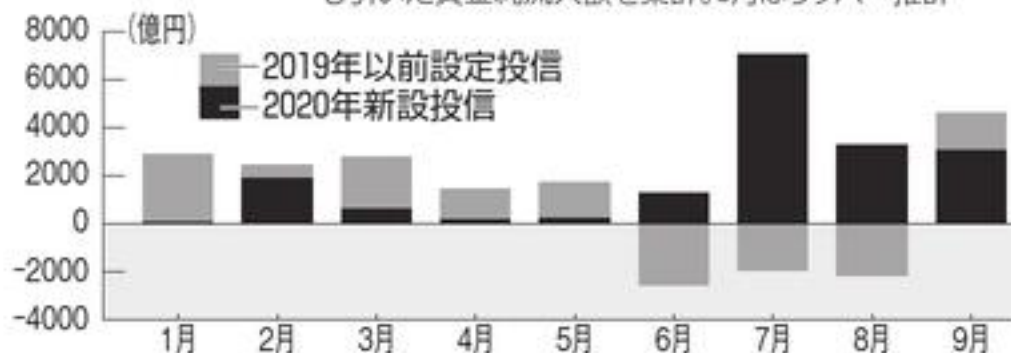
### ■資金純流出入額ランキング(2020年1～9月)

順位	ファンド名(☆は20年新設)	資金純流 入額(百万円)
〈純流入額トップ5〉		
1	☆グローバルESGハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)(アセットマネジメントOne)	575,296
2	☆デジタル・トランスフォーメーション株式ファンド(日興)	207,290
3	アライアンス・パーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型(為替ヘッジなし)予想分配金提示型	194,077
4	ピクテグローバルインカム株式(毎月分配)	171,556
5	ティー・ロウ・プライス 米国成長株式ファンド	170,099
〈純流出額トップ5〉		
1	ひふみプラス(レオス)	-134,912
2	グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)(日興)	-78,770
3	モビリティ・イノベーション・ファンド(BNYメロン)	-76,583
4	野村インド株投資	-69,058
5	ロボット・テクノロジー関連株ファンド -ロボテック(大和)	-64,527

上場投資信託(ETF)を除く株式オープン投信について設定額から解約・償還額を差し引いた。リッパー推計

### 新規設定投信への 資金流入が目立つ

国内で販売されている上場株式投資信託(ETF)以外の株式オープン投信を対象に、2020年に設定した投信とそれ以前の投信に分け、設定額から解約・償還額を差し引いた資金純流入額を集計。9月はリッパー推計



ジなし)」が1位です=表。2位も7月設定の投信で、この二つの投信は、翌8月の資金純流入額でも1位と2位。8月の3位と4位は、やはり8月に設定された「野村ブラックロック循環経済関連株投信」の「Aコース」と「Bコース」の2投信でした。

今年は、新しい投信が募集期間に多額を集め、その後も資金が入り続けています=グラフ。9月単月の純流入額2位が「ティー・ロウ・プライス グローバル・テクノロジー株式ファンドBコース(為替ヘッジなし)」、3位は同じ投信の「Aコース(為替ヘッジあり)」で、どちらも9月の

新規設定。2本合計で推計1116億円を集め、10月8日時点で運用効率の観点で新規購入を一時停止しています。

一昔前の株式オープン投信は、当初の募集期間が終わると営業現場は急に静かになり、購入ペースが落ちることがよくありました。今年のように、募集期間中のみならず追加設定期間に入ってから引き続き資金を集めるのは良いことです。ただ、グラフから読み取れるように、6月、7月、8月は既存の投信が流出超過でした。いまだに古い投信から新しい投信への乗り換えが行われているのだろうか、と憂慮しています。